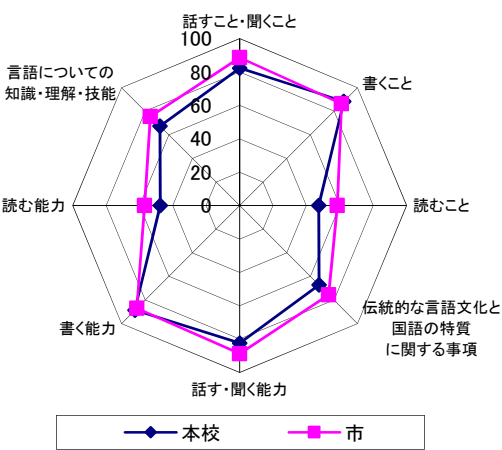


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.4	88.7	89.1
	書くこと	88.3	86.4	64.2
	読むこと	47.4	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.3	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	82.4	88.7	89.1
	書く能力	88.7	87.1	66.7
	読む能力	47.6	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	67.5	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

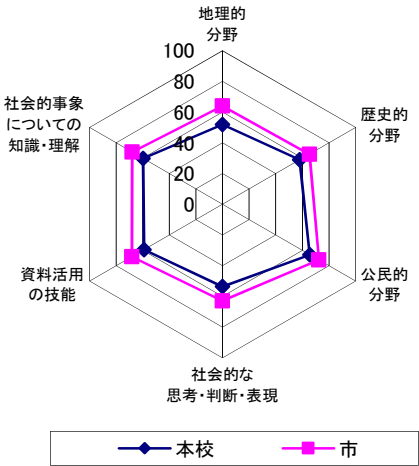
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市の正答率88.7%に対して6.3ポイント下回っている。 ●特に「司会者の工夫」について聞き取る設問において、市の平均を18.1ポイント下回っている。 ○聞き取ったことから「根拠を明確に自分の意見を話す」という活用問題については、ほぼ全国の前年と同様であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実生活に結び付くような言語活動を取り入れることにより、授業中や生活の中で意識させ、「話すこと・聞くこと」の力の定着を図る。 ・「聞き方テスト」やノート指導を通して、意識して聞いたり、ポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせていく。
書くこと	○市の正答率86.4%に対して1.9ポイント上回った。 ○特に「自分の考えを明確に書く」「自分の考えの理由を書く」設問では、どれも市の平均を4ポイント以上、上回った。 ○無解答率は市の平均が6.4%に対し、本校は1.5%という結果だった。	・無解答の生徒がほとんどいなかったことから、「書くこと」についての抵抗はほぼないと思われる。授業の中で、記述問題や作文において、まずは書いてみるという指導を行ってきた結果であるので、引き続き、指導を継続していく。 ・全学級において、スタンダードダイアリーを毎日書くことにより、「書く」ということへの抵抗を少なくしていく。
読むこと	●市の正答率58.5%に対し11.1ポイント下回った。 ●説明文の読み取りに関しては「文章の要旨をとらえる」設問、文学作品の読み取りに関しては「情景描写をとらえる」設問が、市の平均を13ポイント以上、下回った。	・論説文を読むことに関しては、自分の興味・関心のない分野についての内容だと、全体の要旨をとらえるのに苦手意識が根強くある。また、文学作品においては、細かい描写をとらえることに苦手意識が見られる。教科書のテキストだけでなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●市の正答率75.5%に対して8.2ポイント下回っている。 ○「漢字を読む」では、4問中2問が正答率100%であった。 ●「漢字を書く」では、「大群」など、小学校の既習漢字だったが、全て市の平均を下回った。 ○古典の内容理解に関しては、内容把握の設問で、市の平均を上回ったものもある。	・少し難解な漢字を読むことができないことから、プリント学習や掲示物で読み方を覚えさせてきた成果が出た。語彙力の向上、場に応じた言葉の使い方を身に付ける必要がある。授業における語彙力を増やすための言語活動の工夫や、日常生活における言葉によるコミュニケーションの場の設定を考えていく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	51.9	64.0	50.9
	歴史的分野	58.0	65.3	57.1
	公民的分野	65.6	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.6	62.9	52.3
	資料活用 of 技能	59.1	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	59.8	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

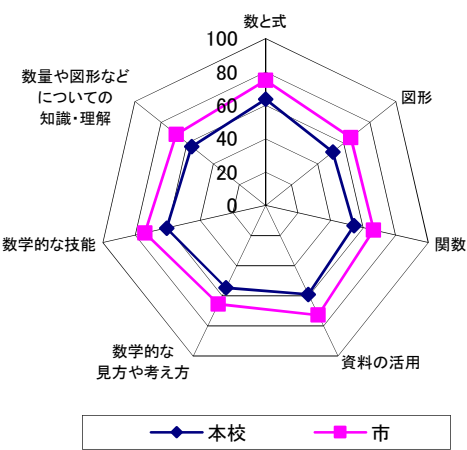
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●正答率は、市より12. 1ポイント低い数値であった。 内容ごとに見てみると、世界のさまざまな気候帯や気候区に対する理解が、市より17. 3ポイントと著しく下回っている。また、世界のエネルギーに関して、複数の資料をもとに判断する問題でも市より17. 8ポイントと著しく下回っている。	○教科書の重要語句やワークブック、資料集を利用し、知識の定着を図り、基礎的・基本的な事項をしっかりとおさえさせる。 ・赤道を基準として気候帯を捉えさせ、そこに生活している人々の様子と環境を結び付けられるようにするなど、他の地理的事象や他の分野の事象と関連付けて考察できるようにする。 ・グラフやデータを読み取る力や考察を、話し合い活動等を取り入れた授業を意識的に行うことにより高める。
歴史的分野	●正答率は、市より7. 3ポイント低い数値であった。 ○キリスト教の伝来に関する内容について、市より15. 7ポイント高い数値であった。 ○室町文化や大航海時代や鉄砲伝来に関する史実、豊臣秀吉による兵農分離に関する理解も市のポイントを若干下回っているが概ね良好である。 ●中世までの日本の歴史、とりわけ奈良時代と平安時代の学習内容の定着度に低さが見られる。	・奈良時代と平安時代に関しては、小学校で学習した歴史上の人物やできごとと関連付けながら基礎的・基本的な事項をしっかりとおさえることで知識の定着を図る。 ・以前学習した内容の定着が不十分になりがちになる為、時代の変遷にともなう変容や変化を比較することを取り入れて復習させる。
公民的分野	●正答率は、6. 8ポイント低い数値であった。 ○憲法改正の手続きへの理解が市よりも13. 5ポイント高い数値であった。 ○人権に関する理解や国会と内閣の関係についての理解は市のポイントを下回っているが概ね良好である。 ●地方自治における直接請求権の用語や具体的な手続きの理解が市より19. 0ポイント下回っている。	・政治や社会的事象への興味・関心を高めるため、TVや新聞等で報じられている話題を授業で取り入りあげる。 ・憲法改正、法律の手続きや直接請求権等に関しては、具体的な事例を示し理解を深めさせ、繰り返し言及することで定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.7	75.0	70.3
	図形	51.5	65.2	63.4
	関数	54.3	66.4	51.5
	資料の活用	59.1	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	54.7	65.5	55.1
	数学的な技能	60.8	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	56.6	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

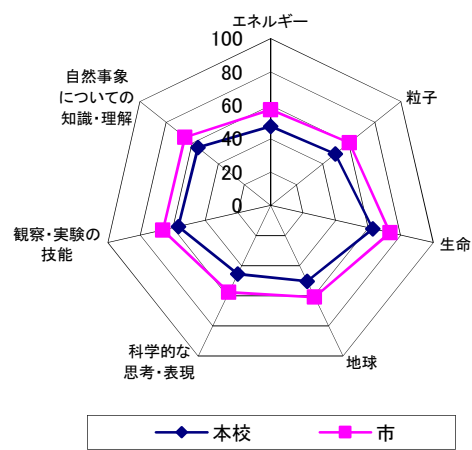
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○累乗を含む正負の数の減法では正答率が90%を上回った。 ●全体的に市平均より11.3ポイント下回っている。特に、分母を有理化し、根号を含む式の減法の問題では、正答率が市より23.7ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本的な計算問題を繰り返し取り組ませることで、正確な計算を身に付けさせる。 ・既習事項でつまづきが見られる場合には、つまづいている箇所に戻り、そこからもう一度指導していく。 ・生徒の苦手意識の改善を図る為に、TTやかがやきルームの活用を積極的に行う。
図形	●正答率は、市より10.8ポイント低い数値であった。 ●線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって作図する問題では、市正答率を18.1ポイント下回っている。 ●相似な図形の性質から、辺の長さを求める問題では、市正答率を17.7ポイント下回っている。	・2学年で学習する三角形の合同条件や相似な図形についてもう一度復習し、内容の定着を図る。 ・作図に関して、見通しを持って作図したり、作図の方法を見直し、その基になっている図形の性質を理解させる。 ・相似の相似条件を、相似の根拠を伝え合う活動を通して、生徒の意欲・関心を高め、相似な図形の理解を深める。
関数	●正答率は、市より12.1ポイント低い数値であった。 ○問題の条件にあう点の座標を求めることへの理解は、市の正答率をやや下回ってはいるが、概ね良好である。 ●関数 $y=ax^2$ における変化の割合を求める問題に関して、市の正答率を20.3ポイント下回っている。	・身の周りの事象を関数的に捉え、それを利用するような問題に取り組ませることで関数を身近なことと感じさせ、生徒の苦手意識を克服させる。 ・比例、反比例、1次関数の既習事項を繰り返し復習した上で、2乗に比例する関数の学習に取り組ませ、一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに、表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。
資料の活用	●正答率は、市より13.7ポイント低い数値であった。 ○中央値への理解は、市の正答率をやや下回ってはいるが、概ね良好である。 ●度数分布表から、階級の相対度数を求める問題では、市の正答率を19.5ポイント下回っている。	・基礎・基本の確実な定着を図るため、確率の単元に入る前に、資料の活用における階級値・相対度数・最頻値・中央値などの用語の復習を行う。 ・総度数の異なる資料を提示し、相対度数の意味とともに必要性についても説明させるなど、生徒同士で数学的な表現を用いて説明し合うことで理解を深めさせる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	47.5	57.5	51.6
	粒子	49.7	60.3	53.0
	生命	62.8	73.4	67.9
	地球	50.3	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	45.6	57.7	51.5
	観察・実験の技能	56.6	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	55.7	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

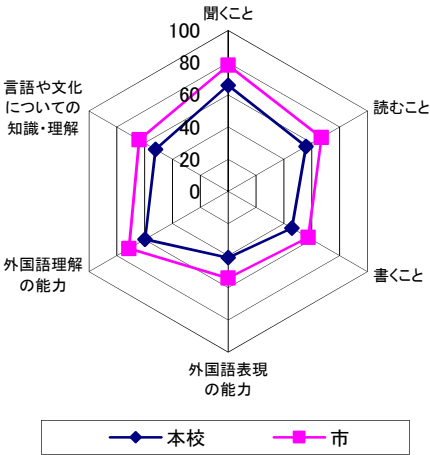
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●正答率は、市より10ポイント低い数値であった。 ○仕事を求める式の理解については市よりも0.9ポイント高い数値であった。 ●仕事の原理や発熱量など、計算を求める内容については、市よりも20ポイント以上と著しく下回っている。	・無回答を減少させるために、教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・電流の分野では、実験で得られた値をグラフ、表にまとめ、その値を活用して計算問題に取り組み、理解を深める。光の分野では、レンズと物体の位置関係で像がどのように変化するかを、話し合い活動を通して理解を深める。
粒子	●正答率は、市より10.6ポイント低い数値であった。 ●文章と表をもとに物質の結晶を求める式では、無回答率が市よりも10ポイント以上、高い。 ○水の分解では、実験で使用する物質や発生した気体の別の方法については、市よりも低いのが概ね良好である。	・無回答を減少させるために、教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・実験結果等の理解が低いので、導入や結末で発問を通して、理解を深めていく。また、計算問題については、例題を増やし繰り返し学習をして定着させ、粒子は目に見えない領域なのでモデル図などを活用して授業展開していく。
生命	●正答率は、市より10.6ポイント低い数値であった。 ●細胞でヨウ素液で染色される部分を塗りつぶす内容では、無回答率が市よりも3ポイント、遺伝の形質を表す内容では10ポイント以上、高い。	・無回答を減少させるために、教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・実験・観察から得られたデータをもとに活用する力が不十分なので、話し合い活動を通して、結果だけでなく、それらを活用する授業を展開する。
地球	●正答率は、市より10.6ポイント低い数値であった。 ●火山については、重要語句などは理解しているが、火山のでき方についての理解が著しく下回っている。 ●大気中の水蒸気の変化を記述で答える分野では、無回答率が市よりも上回っている。	・無回答を減少させるために、教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・身の回りの現象について、結果だけでなく、途中経過（過程）を話し合い活動を通して見出し、何度も記述させて学習の定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.9	78.4	72.9
	読むこと	55.8	66.9	63.2
	書くこと	45.7	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	41.3	54.0	51.1
	外国語理解の能力	59.8	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	52.3	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●市の平均正答率より12. 5ポイント低い。 ○絵を見て、これからすることや天候についての英文の聞き取りは、市の正答率を、やや上回っている。 ○好きなスポーツや許可を求められたことに関して応答することについての英文の要点を聞き取ることもほぼできている。	・リスニングは英語が苦手な生徒でも取り組みやすい活動なので、毎日英語を聞き書き取るディクレーションを取り入れ、能力の向上を図る。
読むこと	●市の平均正答率より11. 1ポイント低い。 ○英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に適切に応じることは、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○ブログの内容を理解することは、市の平均正答率より1. 2ポイント高い。	・基本的な英単語の意味を正確に覚える必要がある。名詞、動詞、形容詞、副詞の違いなどを意識して、意味を覚え定着させる。 ・読み取りのポイントを十分指導し、英文を見たときに大まかな流れ、概要や要点を捉えられるような読み方を身に付けさせる。
書くこと	●市の平均正答率より11. 8ポイント低い。 ●whenを使って時をたずねる英文を作ることが著しくできていない。また、whatと最上級を使って疑問文を作ることできていない。 ●疑問詞＋to不定詞などで語順を正しく並べ替えることが苦手である。	・基本的な語句が正しいスペルで書けるようにすることが最重要課題なので、繰り返しドリル学習を行う。 ・場面にに応じて使用する言語材料をしっかりと把握できるよう、文法事項の導入では身近な場面を設定するようにする。 ・授業の中で既習事項の単語や文法を繰り返し復習できる場面を多く取り入れ、英作文の基本となる語彙や語形・語法の知識理解を高める。

宇都宮市立上河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒を育成する。	・話し合い活動や、グループ活動、発表の機会等を意識的に授業の中に取り入れる。	・「グループなどでの話し合い活動に自ら進んで参加している。」との質問に対し、肯定的回答が1学年90.4%、2学年78.0%、3学年80.0%であり1学年は9ポイント市割合を上回っている。2学年は2.5ポイント、3学年は1.9ポイント下回ってしまった。 ・「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる。」では、肯定的回答が1学年78.1%、2学年73.2%、3学年64.6%であった。1学年は8.8ポイント、2学年は3.2ポイント市割合を上回ったが、3学年は10.8ポイント下回ってしまった。 ・「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」では、肯定的回答が1学年79.5%、2学年74.4%、3学年84.6%であった。1学年は0.9ポイント、3学年は2.4ポイント市割合を上回ったが、2学年は3.9ポイント下回ってしまった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・3学年は、「グループなどでの話し合いに自ら進んで参加している。」で昨年度肯定的回答が71.4%であったが今年度は80.0%、「自分の考えを、根拠を挙げながら話すことができる。」では昨年度肯定的回答が60.0%が今年度は64.6%、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」では昨年度肯定的回答が82.9%が今年度は84.9%と市肯定的回答割合よりは下回る結果ではあるが、昨年度と比較するとどの項目も肯定的回答の割合が上昇している。このことから重点的な取組により、学習において自分の考えを伝え学びあう活動ができてきている。今後、これまで以上に意識的にこのような活動を学習に取り入れることで、学びに向かう集団づくりをしていきたい。
- ・地域学校園学力向上部会授業力向上プロジェクトで進めている9年間を見通した指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。各教科において漢字、計算、英単語、教科の専門語彙など基礎基本的内容の小テスト等を行ったり、家庭学習の取組について個人懇談、保護者会や学校だより等を通じて家庭での協力を得ることでより確かな学力を身に付けさせたい。